



夏戸城は、清和源氏の流れをくむ志駄氏の居城です。でも夏戸集落の裏山には、曲輪（平地）や土塁、横堀、畝形竪堀、虎口（出入口）などがみられ、限らない山を感ぜさせます。成り見莫は大きく、新潟県

## 夏戸城跡の保存・整備活動

成田純一 62歳

わたしたちの集落の裏山は、戦国時代、山城だった。約20年前、手付かずの状態だったこの山を城跡として保存し、後世に伝えていくため、手入れをはじめた。

整備はおとなりの与板を参考にしながら行った。ホームセンターから材料を仕入れて、大手門や標柱を手作りしたり、子どもや老人が登れるように階段をつけた。絵を描くのが得意な者、大工が得意な者、土木作業が得意な者…できることを持ちよって、楽しみながら作業が進む。「次はここに看板を立てたらどうか。」次々にアイデアが浮かび、整備はまだ終わらない。

平成23年10月、城跡のふもとでトキの分散飼育が始まった。これを契機に、ますます活動に力が入る。訪れる人には飼育センターや学習館と一緒に、城跡、動植物、農業と、夏戸をまるごと見てもらいたい。そして、のどかな自然環境や歴史ロマンを肌で感じてくれたらうれしい。

## 自然と人間が共存する地域を目指して

長岡市環境政策課・トキ保護推進班

長岡市内でも緑豊かで穏やかな環境にある夏戸地区は、全国で4箇所のトキ分散飼育地のひとつに選ばれました。市では平成23年10月からトキの飼育を行うほか、市民のみなさんにトキの分散飼育事業を通じ、自然環境保全の大切さを知ってもらうため、平成24年3月に「トキと自然の学習館」を整備しました。

長岡でトキの分散飼育をする目的は、トキの繁殖や佐渡での野生復帰を支援するためだけではなく。中越大震災からの再生・復興の象徴と位置づけ、自然と人間が共生する地域の再生・復興を目指すこと。そんな大きな夢を描いたプランです。

この夢に向かって、一緒になって取り組んでくれているのが地域のみなさんです。地域のみなさんとアイデアを出し合って、夏戸地区から全国に情報発信をしていきたいと思っています。



### Ⅱ 市民協働 story Ⅱ

外部の人にとって、寺泊といえば「魚の市場通り」や海水浴場など、観光・レジャーのイメージが強いかもしれませんが、緑豊かな山村部にも魅力的な場所がたくさんあります。夏戸地区もそういった地域のひとつです。長岡市ではこの地区に「分散飼育センター」や「学習館」を設置し、専門家とともに万全の体制でトキを受け入れました。地区では、子ども会・青年会・老人会・民謡保存会・城跡保存会などさまざまな主体が、手作りのイベントや周辺整備を行い、あたたかく歓迎しています。すばらしい資源があっても、放って置けば埋もれてしまいます。人々がそれを活かす方法を話し合い、それぞれの「得意なこと」「自分にできること」を持ち寄り、磨きあげていくことで、さらに魅力的なものになっていくのではないのでしょうか。